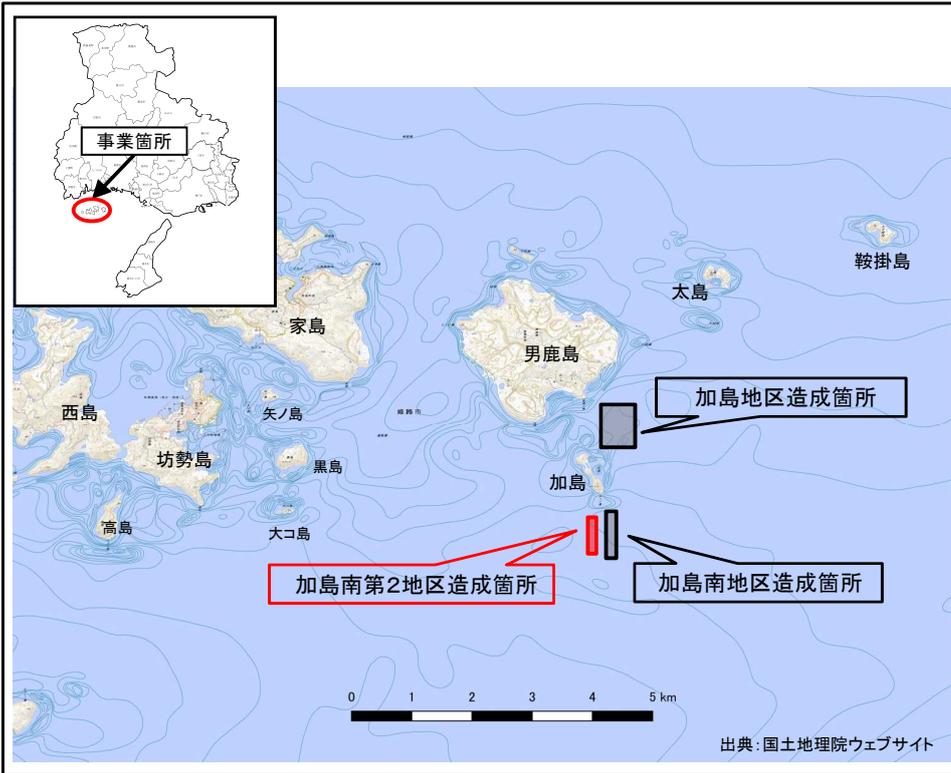


漁場整備事業 加島南第2地区

位置図



事業概要

- ①事業概要：増殖場 約13.4ha
(地元石材を用いた石材礁3基)
- ②所在地：姫路市家島町地先
- ③事業期間：R3～R5
- ④総事業費：9.0億円
- ⑤事業効果：対象魚種の資源増大及び
蛸集※による生産量の増大
※蛸集【いしゅう】：
一時に多くのものが一箇所に集まること
- ⑥費用便益比B/C：1.31
- ⑦対象魚種：マアジ、カレイ類、メバル
マダイ、カサゴ等



工程	R3	R4	R5
増殖場造成			

事業の必要性

- ① 当地区は、県下有数の漁業勢力を誇る坊勢漁協の組合員が漁場として利用している海域の一部であり、本県瀬戸内海海域における漁業生産の拠点となっているが、海域の大部分は平坦な砂泥底であり、天然礁等生産性の高い「磯」に恵まれていない。
- ② 本事業では大規模な石材礁を複数造成して増殖場を整備することにより、海域を「鹿ノ瀬」に代表される生産性の高い環境へと改善し、水産資源の底上げと漁業生産の安定を図る。
- ③ 本事業により環境を改善すること併せて、禁漁区の設定や種苗放流等の資源管理の取組を推進し、豊かな海の再生と水産業の活性化を図る。

	現況	計画
生産量	3,243トン	3,322トン
生産金額	1,478百万円	1,525百万円

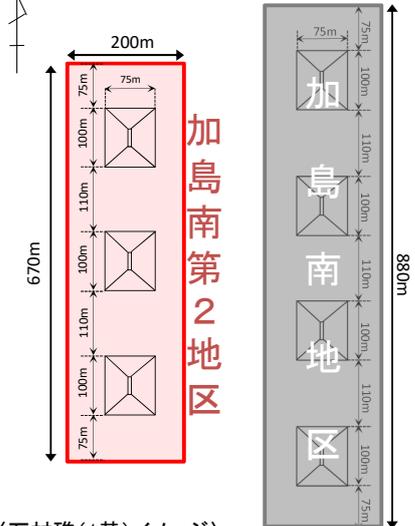
造成手法

- ・生産性の乏しい砂泥底に石材を用いて大規模な礁を造成。
- ・加島南地区と連携を図り、相乗効果を期待。

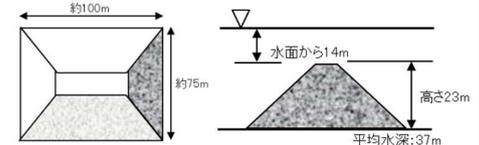


石材の投入

〈配置イメージ〉



〈石材礁(1基)イメージ〉



期待される効果 ～既設増殖場(加島地区)で確認された効果～

- ① 生息生物の増大
頂上部付近にはカジメ等の海藻が繁茂。稚魚の隠れ場やゴカイ等の餌生物が繁殖する良好な環境が創出され、メバルやアジ等30種以上の魚類を確認。
- ② 魚類再生産の場の創出
メバルやカサゴの定着性魚類では成熟(抱卵)した親魚が採捕され、再生産されていることを確認。
- ③ 生産効率の増加
漁場整備・資源管理(禁漁・種苗放流)の連携による「しみ出し効果」により、増殖場周辺海域を主漁場とする漁協の1経営体当たりの漁獲量が7.1%増加
効果発現前(H17～H21年平均)：10.915kg/経営体 → 効果発現期(H22～H29年平均)：11.694kg/経営体

成熟(抱卵)個体 左:メバル、右:カサゴ

石材礁における海藻、餌生物、魚類などの分布